

平成22年6月15日現在

研究種目： 若手研究 (B)  
 研究期間： 2008 ~ 2009  
 課題番号： 20710198  
 研究課題名 (和文)  
 北・南米の日系女性文化に見られるジェンダーと表象性の比較研究  
 研究課題名 (英文) Comparative Researches on Gender and Visual Expressions in Japanese Women's Works in North and South America.  
 研究代表者  
 山出 裕子 (YAMADE YUKO)  
 お茶の水女子大学・ジェンダー研究センター・研究協力員  
 研究者番号： 10452038

研究成果の概要 (和文)：本研究では、北米と南米にみられる日系女性文化の形成とその変化の過程を比較研究し、そこに現れるジェンダーやエスニシティの特徴を明らかにしている。さらに、特に新しい世代の文化に注目することにより、表象性を用いた新たな文化表象形式に見られる特徴を明らかにしている。日系女性文化研究としては、アメリカを中心にした研究はこれまでも見られたが、特に本研究では、北米のカナダや南米のブラジルにおける女性文化に注目している。ゆえに、本研究は、日系女性文化の研究に新たな視座をもたらすだけでなく、これまでに行われた研究と比較することで、日系女性文化の持つそれぞれの文化的特徴をより明らかにしていることに意義があると言える。また、近年では、日本に生まれ、外国に移住している女性たちの文学もまた新たな日系世代(「新一世」)の文化として注目されている。これらもまた、従来から見られている英語圏以外の文化圏でも見られるようになっており、その言語、滞在する文化圏は、ますます多様になってきている。本研究では、そうした、これまでとは異なる視座から、日本を考察している女性たちの文学を比較研究することにより、世界に広がる日本女性の文化的特徴とグローバル化時代のその新たな枠組みを示しており、このことは、日系文化研究のさらなる発展に大いに貢献するものであると言える。

研究成果の概要 (英文)：This research examined the formation and the process of development of Japanese women's culture especially in North and South America and explored the characteristics of gender and ethnicity in their cultural expressions. Also, by focusing on the new form of cultural expressions, such as documentary films, it demonstrated the new characteristics in the younger generations of Nikkei Women's culture. Although we have already seen some researches on Nikkei women's culture, especially in US, this research examined and compared Nikkei women's culture especially in Canada and Brazil. By so doing, we could have clearly seen the specific characteristics of each of these cultures. This research also observed the works by 'New-First Generation' of Nikkei Women, who were born in Japan and migrated to foreign countries. Currently, these new Nikkei women can be seen not only in English countries, but in other cultural regions and languages such as in French, German and Portuguese. This research also demonstrated the characteristics of these new Japanese women's culture by using the comparative approaches. Thus, this comparative analysis has revealed the new frame of Japanese women's culture in the era of Globalization.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2009年度	1,900,000	570,000	2,470,000
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：比較文学

科研費の分科・細目：複合領域・ジェンダー

キーワード：ジェンダー、女性文学、比較文学、移民研究、日系研究、カナダ研究、ブラジル研究

## 1. 研究開始当初の背景

昨今、日系文学や文化に対する研究は広がりを見せている。それは例えば、文学理論の分野では、「グローバリゼーション」などの、新しい理論と関連しており、それについての、エスニシティやマイノリティという概念をこえた文学研究がなされ始めている。しかしながら、これまでの日系文学は、一、二世の世代の、戦前の移民体験や、戦中、戦後社会での人種差別といった経験が多く描かれ、歴史的史実や日系コミュニティとの関係を通じた研究が中心であった。例えば、カナダの日系移民文学についても、やはり一、二世の作品を中心にした研究がこれまで成されてきているが、現代の日系社会においては、三世や四世（または、新一世）の作品が現れ、前の世代の文学とは異なる特徴を示している。このことは、他のエスニックグループ（例えば、中国系、メキシコ系移民など）の文学については、すでに論じられているが、日系については、まだあまり成されていない。また、「ジェンダー」の問題は、これまで、特に北米の日系文化研究においては、主要なテーマの一つであったが、新しい世代に見られる特徴については、まだあまり論じられていない。さらに、南米の日系文化研究においては、ジェンダー意識との関連で展開していくことが、これからの重要な課題の一つである

といえる。そうした状況から、日系研究の中でも、あまり研究の進んでいないカナダとブラジルにおける新しい世代の女性文化を比較することにより、新たな日系女性文化の特徴を示したいと考えたことが、この研究を始めるにいたった背景である。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、北米（カナダ、アメリカ）と南米（特にブラジル）の日系女性文化における新しい世代の特徴を、特にジェンダーに注目し、比較分析することにある。さらに文化の表象の形式として、従来の文学としての描き方に加え、新たな世代の作品に見られる映像表現にも注目することで、新たな日系文化の特徴を見出すことが、本研究のもう一つの大きな目的である。

これまで、日系文化とは、「日本文化」の一つとしてではなく「他」の文化であるとみなされがちであった。しかしながら、ポストコロニアル主義以降、国境という概念を取り払った文化的枠組みでは、日本文化のもう一つの形として、日系文化を認識する必要があると言える。しかしながら、その「もう一つ」の文化の特徴は、言語や文化的違いなどのため、まだあまりはっきりと捉えられていないのが現状である。ゆえに、本研究では、日本文化と北南米の日系文化との類似点、（もし

くは、「差異」を明らかにすることで、それを日本文化のもう一つの形として認識し、そうして、「他文化」に対する、新たな視座をもたらすそうとするための試みがなされている。

その際、特に本研究では、女性の作品に注目し、日系社会と文化について論じている。そのような「ジェンダーの視点」からの日系文化研究は、すでに論じられることはあったが、本研究では、それを、若い世代の作家たちの文学や、彼女たちが積極的に作品に取り入れる、映像表現について論じていることに大きな特徴があると言える。

さらに、北・南米の日系文化の特徴を、日本文化のそれと比較研究することで、これまでではっきりと示されてこなかった日本（系）文化の世界への広がりが示されていることもまた、新たな試みであると言える。そうして、本研究では、これまでの文化圏や国境の概念を取り払い、グローバルな視野に立った、日本文化のあり方が明らかにされているのである。

### 3. 研究の方法

本研究は、大きく分けて以下の4つの方法によって行われた。(1) 日本における文献の精読と分析、(2) カナダにおける在外研究と資料収集、その精読と分析、(3) ブラジルにおける在外研究と資料収集、その精読と分析、(4) 成果刊行のための執筆、学会発表のための準備。以上の4つの方法を段階的に行った詳細は、以下のとおりである。

#### (1) 日本における文献の精読と分析：国内

#### における先行研究の調査、および、理論書、参考文献の情報を収集（平成20年度前半）

既に国内において行われた、本研究に関する先行研究の調査を行った。さらに、論的枠組みを確立するため、グローバリゼーション以降の文学理論の研究、分析を行った。また、女性文学、ジェンダー、表象文化に関する、最新の比較文学的理論についての文献研究を行った。

#### (2) カナダにおける在外研究と資料収集、その精読と分析：カナダの日系三世以降の世代の北米における日系文化についての資料収集と分析（平成20年度後半）

カナダのトロント大学とモントリオール大学にて在外研究を行い、北米の新しい日系世代の資料を収集し、三世以降の文学や表象性の特徴の分析を行った。また、トロントの日系女性作家（日系カナダ人三世のケリー・サカモトなど）や、モントリオールの移民作家（アジア系移民作家二世や日系ケベック人新一世など）のインタビューを行った。

#### (3) ブラジルにおける在外研究と資料収集、その精読と分析：ブラジルでの在外研究、調査、資料収集および、その分析（平成21年度前半）

ブラジル、サンパウロ大学の日本文化研究所、日文研資料室などにて、ブラジルの日系文学や女性文化についての資料を収集し、分析を行った。また、サンパウロ大学の日本文化研究所の研究者としての受け入れを許可され、所長オダ教授や森教授らとの意見交換を行った。さらに、同研究所の研究者として、ブラジルの日系文化の現状について聞き取り

調査を行い、資料提供などを受けた。在外研究中、サンパウロ国際交流基金で、立命館大学の西成彦教授らとともに日系文学に関する講演を行った。また、同じ期間中にサンパウロ大学で行われた「ブラジル日本学・日本語学研究学会」のシンポジウムでは、西教授や国際日本文化研究センターの細川周平教授らとともに、パネリストとして参加し、日系女性文学に関する研究発表を行った。

**(4) 成果刊行のための執筆、ならびに、学会発表のための準備：在外研究の際の研究者との意見交換や資料分析の成果をまとめた成果刊行のための執筆、国内外での学会での研究発表のための準備（平成21年度後半）**

これまでの研究をもとに、北米、南米の日系女性文学に関する多角的な比較研究を行い、研究成果刊行のための執筆を行った。また、研究期間中も、断片的な研究成果について、国内のみならず、欧州やアジアにおける国際学会で発表を行った（詳細については、次項「学会発表」を参照のこと）が、さらに包括的な発表のための準備をすすめた。平成22年度以降、国内外の国際学会での研究発表や、国内外での学会誌での研究論文の掲載が予定されている。

#### 4. 研究成果

日系女性文化に関する様々な考察を通して、その特徴の変遷や、特に新たに見られる特徴について明らかにすることができた。とりわけ、北米カナダと南米ブラジル、さらに欧州に広がる「新一世」の文化に見られる特徴を

比較することにより、異なる文化地域におけるそれぞれの日系女性文化の特徴と発展の過程を明らかにすることができた。また、そこに見られる類似性を見出すことで、世界へ広がりを見せる日本女性たちの新たな文化的枠組みとその特徴を明らかにすることができた。

なお、本研究の成果として、『移動する女性たちの文学』（山出裕子著、御茶の水書房、平成22年10月出版予定）の特に以下の章を参照されたい。

### 第三章 移動する日本女性の文学（3）

#### 関口涼子とアキ・シマザキ

1. フランス語圏の移民と文学  
フランコフォニー＝フランス語圏の文学／フランスの移民と文学／ケベックの移民文学に見られる特徴
2. フランスの日仏詩人、関口涼子の移動の詩学  
関口涼子／フランス語と翻訳性／音韻と表象性／混血性と創造性／言語間の創造性
3. ケベックの日系作家、アキ・シマザキの新移民文学  
アキ・シマザキ／フランス語作家としての特徴／ケベックの新移民としての特徴／ケベックフェミニズムとフェミニスト翻訳／ケベックと日本のエスニシティ

### 第五章 日系カナダの女性文学（1）

#### ヒロミ・ゴトー

- 1 日系カナダ移民とエスニシティの変遷  
カナダへの日系移民の歴史／日系エスニシティの変化－二世から三世へ／日系カナダ文学の形成／ヒロミ・ゴトー
- 2 『キノコの合唱』とエスニック・アイデンティティ  
エスニシティと食文化／エスニシティと臭覚／身体性とフェミニズム
- 3 『カッパの子』に見られるファンタジーの

役割

「マジック・リアリズム」としての特徴  
／「フェミニスト・ファンタジー」と  
エスニシティ／現実性 / 非現実性と  
メタフィクション／物語の書き換え  
と「混血性」

## 第六章 日系カナダの女性文学（２）

ケリー・サカモトとリンダ・オーハマ

1. 日系三世と「新」日系文学  
エスノグラフィーから「＜超＞自伝的エ  
スノグラフィー」へ／「自伝的エスノグ  
ラフィー」とドキュメンタリー／  
三世作家の文学と映像表現
2. ケリー・サカモトと三世の文学  
ケリー・サカモト／『エレクトリカル・  
フィールド』と「ポスト」日系コミュニ  
ティ／新しい日系人たち／『一億のここ  
ろ』と移動する三世／三世の新エスニシ  
ティ
3. リンダ・オーハマと日系ドキュメンタリー  
リンダ・オーハマ／『おばあちゃんのガ  
ーデン』とドキュメンタリーの視点／日  
系女性のドキュメンタリーと「関係性」

## 第七章 日系ブラジルの女性文学（１）

弘中千賀子とテルコ・オダ

1. ブラジル日系移民の歴史と文化  
日系移民の始まり／ブラジルの「ニッ  
ケイ」文化／日系コロニア文学／コロ  
ニアの女性作家たち
2. 日本語歌人、弘中千賀子と準二世の文学  
弘中千賀子／「準二世」としての自己／  
晩年の作品にみられる特徴
3. ポルトガル語、俳人テルコ・オダと「ニ  
ッケイ」日系文化  
テルコ・オダ／ブラジルの「ハイカイ」  
と日系ブラジル文化／新しい文学とし  
ての「ハイカイ」／ブラジルの季語とも  
う一つの章／新しい「ハイカイ」—季語  
から主題へ

## 第八章 日系ブラジルの女性文学（２）

カレン・テイ・ヤマシタ

1. ブラジル日系人から在日ブラジル人へ  
在日ブラジル人（「デカセギ」）の文化形

成／エリオ・イシイと「デカセギ」ドキ  
ュメンタリー／

カレン・テイ・ヤマシタ

2. 『ブラジル丸』に見るブラジル日系コミ  
ュニティ  
ブラジルの日系コミュニティ／日系女  
性とジェンダーの視点
3. 『サークルKサークルズ』に描かれる  
「デカセギ」文化  
「サークルKサークルズ」の作られ方／  
「デカセギ」文化にみるエスニシティ／  
「日系人」のエスニシティ

### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者に  
は下線）

〔雑誌論文〕（計5件）

1. 山出裕子「日系カナダ文学に見られるア  
イデンティティとコミュニティの変  
遷：ケリー・サカモトの作品を中心に」  
『カナダ文学研究』第16号（査読あり）  
2009年、pp. 43-58.
2. 山出裕子「日系ブラジル女性文化に関す  
る—考察—＜ニッケイ＞と＜デカセギ＞  
を比較して」『ジェンダー研究』第13号  
（査読あり）、2009年 pp. 143-150.
3. 山出裕子「日系文学を通してみるケベッ  
ク移民文学の特徴—アキ・シマザキの作  
品に関する比較的考察」『カナダ文学研  
究』第17号（査読あり）、2010年、  
pp. 45-48.
4. Yuko Yamade. “Book Review: *Translat  
ing Montreal: Episodes in a Divided  
City* by Sherry Simon.” AALA Journ  
al vol.15 2010, pp. 146-148.
5. 山出裕子 《Découverte des écrits

féministes dans la littérature québécoise contemporaine ». 『ケベック研究』第2号(査読あり)、2010年(掲載予定)

[学会発表] (計 9件)

1. 山出裕子「日系女性とグローバリゼーション」『Nikkei 研究会』2009年3月20日、上智大学
2. 山出裕子《La création de l' espace interculturel entre l' Asie et l' Europe : Une analyse sur L' exophonie et Das nackte Auge de Yoko Tawada》. *Colloque International Weltliteratur au global village de Yoko Tawada* , 2009年5月15日、トゥール大学 (フランス)
3. 山出裕子「日系ケベック作家アキ・シマザキの作品世界に関する一考察」日本カナダ文学会年次大会 2009年6月20日、拓殖大学
4. 山出裕子 「日系ブラジル映像文化にみるジェンダーと表象性—ブラジルの「ニッケイ」と日本の「デカセギ」の比較的研究」『アジア系アメリカ文学研究会例会』2009年7月31日、早稲田大学
5. 山出裕子「日系ブラジルの女性文学—日系カナダとの比較的視点から」サンパウロ国際交流基金講演会、2009年8月25日、サンパウロ国際交流基金(ブラジル)
6. 山出裕子「英・仏日系カナダ文学に見られるアイデンティティとコミュニティの変遷」

7. 『ブラジル日本学、日本語学会』2009年8月26日、サンパウロ大学(ブラジル)

8. 山出裕子《L' influence des oeuvres de Gabrielle Roy sur la littérature québécoise contemporaine》. 日本ケベック学会年次大会、2010年10月3日、明治大学

9. 山出裕子《Migrance et ethnicité dans la littérature québécoise au féminin》. 『韓国ケベック学会』2009年10月31日、コリア大学(韓国)

[図書] (計3件)

1. (単著) 山出裕子『ケベックの女性文学—ジェンダー、エクリチュール、エスニシティ』(彩流社、2009年、198頁)
  2. (共著) 小畑精和他編『ケベックを知るための54章』(明石書店、2009年)
  3. (単著) 山出裕子『移動する女性たちの文学』(御茶の水書房、2010年、出版予定)
6. 研究組織
- (1) 研究代表者  
山出 裕子 (YAMADE YUKO )  
お茶の水女子大学・ジェンダー研究センター・研究協力員  
研究者番号： 10452038
  - (2) 研究分担者  
なし
  - (3) 連携研究者  
なし